



No.9

令和7年
11月5日

すずか幼稚園

第2すずかきしおか幼稚園

秋の遠足

本年度の「秋の遠足」は、すずか幼稚園が10月27日(月)に、第2すずかきしおか幼稚園が翌日の28日(火)に実施しました。

すずか幼稚園では、年少組と年年少組が「神戸公園」へ徒歩で行き、年長組と年中組が「中勢グリーンパーク」へ通園バスで行きました。すずか幼稚園から神戸公園までの距離は、大人でしたらすぐと感ずますが、幼児にとっては列をつくって歩くには結構な遠足の距離となります。子どもたちは周辺の自動車の動きに注意しながら神戸公園を目指しました。神戸公園では遊具で遊んだりした後にお弁当を広げて食べました。中勢グリーンパークへ行った学年は、通園バスに乗り慣れていない子どもたちもバス旅行を楽しんで、パーク内の大型遊具を楽しんだりお弁当やおやつを食べたりしながら楽しんでいました。

前日までの雨により、公園内の状態が心配でしたが、どちらの公園もそれほどの影響もなく笑顔で遠足を終えることができました。

第2すずかきしおか幼稚園では、全学年が通園バスで「楠中央緑地公園」へ行きました。年長組と年中組は、一番奥にある遊具の所まで歩き、まずみんなで池や丘のまわりの遊歩道を歩いて探検に行きました。そして、幼稚園にはない遊具を何度も挑戦したり、友だちと一緒に鬼ごっこをしたりして楽しみました。年少組と年年少組の子どもたちは、入り口近くの遊具で先生と一緒にブランコや滑り台をしたり、小さなバッタを見つけ秋の自然に親しんだりしながら楽しみました。そして、何と云ってもお家の方に作っていただいたお弁当に、どの子も歓声をあげながらおいしくいただきました。その後、天候もあやしくなってきたので予定より少し早く園に帰り、各クラスでおやつパーティーをしました。

今回の遠足では次のようなことを「ねらい」としてあげていました。

- ・秋の自然に親しんだり触れたりしながら、のびのびと遊ぶ。
- ・集団行動のルールを守り、社会性を養う。
- ・ゴミを持ち帰ることや、公園を利用するときのルールやマナーを知る。
- ・公道の歩き方や交通ルールを知る。

どちらの幼稚園におきましても、「ねらい」は達成できたと思いますし、子どもたちの思い出に残る遠足となったのではないかと考えます。



<ヒヤリ！駐車場での事故>

「ちゃんと見てて！」保護者の一瞬の油断がわが子を危険に……

mamasta
セレクト

幼稚園や保育園の駐車場で子どもが飛び出し、それに気づかなかった運転手が子どもをひいてしまったりと亡くなるという痛ましい事故は後を絶ちません。運転手側からすると小さな子どもは運転席の死角に入ってしまう、目視で確認するのは困難です。そんななかママスタコミュニティには、園の駐車場で子どもが飛び出す事故についてこんな投稿が寄せられました。

『わが子が通っていた園ではまだ事故は起きていないけど、いつ起きてもおかしくないと思う。先生たちは必死に呼びかけをしているけど、親たちは全く危機感なし。駐車場近くにある側溝で遊ばせたり、親たちは会話に夢中だったり。この間も駐車しようとバックしていたら2歳くらいの子が走ってきて、親が制止できていない。走る子ってわかっていないのなら、なんで手を離すのかな？ 最悪抱っこしなよ』

こうした事故は親がしっかりと子どもを見守って、安全を確保することがなによりの安全策であることに間違いありません。しかし目を離した隙に子どもが走り出してしまったり、手を繋いでいなかったりすることは珍しくないでしょう。投稿者さんは親たちに危機感がなく、駐車場付近で子どもを遊ばせたり、お喋りに興じていたりすることを批判していました。

うちの園にも駐車場で子どもから目を離す親がいるよ！

『うちの園もいつか事故が起こりそうで怖い。飛び出してくる子はいつも一緒だから、なんで手を繋いだりしないのかわからない。先に子どもを門から出さないでくれ』

『もう駐車場での子どもの事故関連は、手を繋いでいないとか抱っこしていない親、できないのであればハーネスを使うとかの対策をしていない親、これらを有罪にしたほうがいいと思う』

今回の投稿では多くのママたちが、駐車場で小さな子どもを放置している親に対して怒りの声をあげていました。コメントを寄せてくれたママたちは駐車場で危機意識のない親たちをたくさん見てきたのでしょう。乳幼児は「走るのやめなさい！」と注意しても自制が利きませんから、事故を起こさないようにするには親が気をつけるしかありません。そのためには子どもと手を繋いだり、抱っこをしたり、ハーネスをつけたりといくらでも対策はありますよね。これだけ全国的にもニュースになっているなかで、対策を取らずに注意しない親の多さに、ママたちも辟易しているのでしょう。ママたちがここまで怒っているのは、子どもが亡くなるような悲しい事故を防ぎたいという思いがあるからです。

ちなみに筆者は、わが子が通っていた保育園の駐車場に車で進入したときに、園側からいきなり飛び出してきた子ども数人とぶつかりそうになったことがあります。ぶつかることはありませんでしたが、遠くのほうでその子どものママ数人がお喋りをしていたので、車を降りて直接強めに注意しました。それ以降、同じような出来事は起きていないので、直接注意することもある程度は効果があったのではないかと実感しました。

いくら園が注意しても効果がないケースもあり、「自分の子どもが怪我をしたり、亡くなったたりしてから気づいても遅いのに」という厳しい意見も。実際に身近に駐車場での子どもの死亡事故を知っているママのエピソードを読むと、亡くなってしまった子どもが可哀想でなりませんよね。「子どもの命を危険にさらしてまでやりたいお喋りってなんなんだろうね」というコメントには、駐車場付近で立ち話をしてしまっているママにとっては、考えさせられるコメントではないでしょうか。

今回の投稿を見ると、園がいくら注意喚起をしても「私には関係ない」と言わんばかりの親は少なくないことがうかがえます。同じ保護者の立場から注意したほうが危機意識を持ってくれることもあるかもしれませんが、もし駐車場で子どもを危険にさらしている親がいたら、勇気をもって注意することも必要かもしれませんね。

(10/5(日)配信「ママスタセレクト」より抜粋)

